



みんながつながり 夢を育てる学校に
国立二小だより

平成31年1月8日
国立市立国立第二小学校
校長 小林 理人

「幸せ」を味わうことができる学校

校長 小林 理人

あけましておめでとうございます。天候にも恵まれ、穏やかなお正月となりました。皆様も新年を迎え、新たな気持ちでお過ごしのことと思います。本年も、地域や保護者との絆（つながり）を大切に、子供一人一人の良さや可能性を引き出し、夢を育てる教育活動を進めてまいります。ご支援ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

究極の幸せとは

12月7日(水)、プラタナスの担任と一緒に川崎市にある工場の視察に行きました。

その工場は障がい者雇用を積極的に行っていることで注目を集めています。従業員84名のうち64名(76%)が知的障がい者で、そのほとんどが工場の近くにある特別支援学校を卒業し、入社してから退職まで離職することなく定年まで働いているそうです。一人一人の個性を認め、全ての子供の夢を大切にする本校の教育と深いつながりを感じ、この視察を計画しました。

最も印象的だったのは、工場での単純なライン作業を楽しそうに取り組む従業員の方の姿でした。一人一人が自分の役割をもち、生き生きと作業をする様子に、二小の子供たちや教職員の姿を重ね、心が震えました。そして、案内をしてくださった職員の方の会社の理念についての説明にその秘密を見つけました。

「人間の究極の幸せは『愛されること』『ほめられること』『人の役に立つこと』『人に必要とされること』の4つです。この4つのことは仕事をする中で得ることができます。私たちは障がいの有無にかかわらず、全ての社員がこの幸せを味わう会社をめざします。」

さらに、この理念に基づき、全ての社員の幸せのために次のような配慮をしているそうです。

- 入社の前に実習を行い、一人一人の特性や趣味、特技などから担当する仕事の内容を決める。
- そして、その仕事は定年を迎えるまで変わることはなく、それぞれの仕事の質を高めていく。
- 社員全員が1年間に取り組む目標を決める。目標は、ノートをつくって毎日振り返っている。
- 年末には表彰があり、目標を達成したことを評価してもらえる。
- 仕事はリーダーを中心にチームを作って行う。リーダーは「整理・整頓」「安全」など工場全体で守ることを、チーム全体で意識できるように声掛けなどを行う。
- チームにはリーダーとは別に健常者の社員がおり、チームのメンバーの理解の程度に合わせて障がいのある社員の応援をしている。

視察を終えて、全社員が何かの役に立って幸せになることをめざしたこの工場に、二小の姿を重ね、これまで進めてきたことへの確かな手応えと、これからの課題を見つけました。

しっかりとエネルギーを蓄える1年に

今年は亥年です。十二支の最後となる亥年は、次の年が始まりの「子（ねずみ）年」であることから「次のステージに向けた準備のために、しっかりとエネルギーやパワーを蓄えている年」と言われています。5月には新しい元号となり、学習指導要領の改訂、オリンピック・パラリンピックの開催、校舎の建て替え、70周年事業などを目前に控えています。

これまで進めてきた「みんながつながり 全ての子供の夢を育てる」という基本理念を大切に、子供たちはもちろんのこと、教職員、保護者、地域の皆様が幸せを味わうことができる学校をめざし、しっかりとエネルギーやパワーを蓄える1年にしたいと思います。